



基準価額、パフォーマンス等の状況

基準価額・純資産総額の推移



※基準価額は信託報酬控除後のものです。後述の信託報酬に関する記載をご覧ください。
 ※上記グラフは過去の実績であり、将来の運用成果をお約束するものではありません。
 ※基準価額は1万口当たりで表示しています。
 ※設定日は2023年8月29日です。

基準価額・純資産総額

基準価額	17,359 円
純資産総額	944 百万円

騰落率（税引前分配金再投資、%）

	ファンド
1か月	+8.31
3か月	+15.66
6か月	+26.97
1年	+71.65
3年	-
設定来	+73.59

※ファンドの騰落率は、税引前分配金を再投資したものと計算しているため、実際の投資家利回りとは異なります。

分配の推移（1万口当たり、税引前、円）

期	決算日	分配金
第1期	2024/6/5	0
第2期	2025/6/5	0
第3期	2026/6/5	
第4期	2027/6/7	
第5期	2028/6/5	
設定来累計		分配実績なし

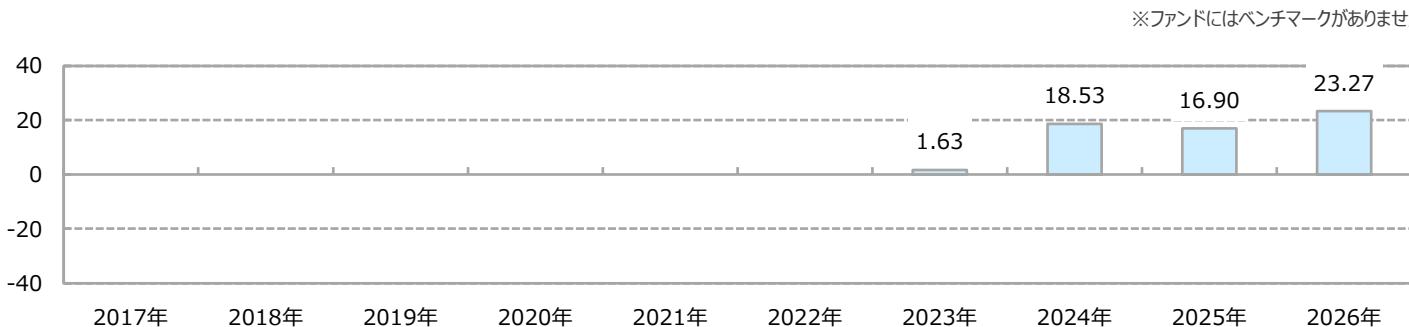
※分配金額は、収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。
 分配対象額が少額の場合等には、分配を行わないことがあります。

資産構成（%）

資産	比率
ニューバーガー・バーマン・U Sスモールキャップ・イントリンジック・バリュー・ファンド (JPY I3 アキュムレーティング・クラス)	98.9
東京海上マネープールマザーファンド	0.0
短期金融資産等	1.1
合計	100.0

※比率は純資産総額に占める割合です。
 ※短期金融資産等は、組入投資信託証券以外のものです。

年間収益率の推移（%）



※ファンドの収益率は、税引前分配金を再投資したものと計算しており、設定日以降を表示しています。
 ※設定年は設定時と年末の騰落率です。当年は昨年末と基準日の騰落率です。
 ※上記は過去の実績であり、将来の動向等を示唆・保証するものではありません。

※6ページの「当資料のお取扱いにおけるご注意」をご覧ください。

Monthly Report

東京海上・米国リカバリー・ポテンシャル戦略株式ファンド

(参考) ニューバーガー・バーマン・U Sスモールキャップ・イントリンジック・バリュー・ファンドの資産状況

※ニューバーガー・バーマンからの提供データに基づき掲載しています。

※比率は保有株式の時価総額に占める割合です。

※業種はGICS（世界産業分類基準）セクター分類です。

リカバリー・ポテンシャル (%)

リカバリー・ポテンシャル	27.39%
--------------	--------

※リカバリー・ポテンシャルとは「企業の本源的価値*と株価の乖離」を指します。

*本源的価値とは、運用者が算出した「企業が本来有する価値」です。

※数値は基準日の前月末のものであります。

規模別構成 (%)

時価総額	比率
25億米ドル未満	21.7
25億米ドル以上50億米ドル未満	37.1
50億米ドル以上100億米ドル未満	13.7
100億米ドル以上	27.4

組入上位5業種 (%)

	業種	比率
1	情報技術	35.9
2	資本財・サービス	22.3
3	公益事業	10.2
4	ヘルスケア	8.0
5	エネルギー	6.0

組入上位10銘柄 (%)

	銘柄/業種	比率	銘柄概要
1	ピアサット 情報技術	4.4	米国の衛星ブロードバンドサービス企業。自社および提携先の多軌道衛星ネットワークを活用し、地上（遠隔地や災害地）、空中（機内Wi-Fi）、海上（船舶インターネット）など様々な場所で最適な周波数・衛星に自動接続するサービスを提供。
2	ビーコインズツルメンツ 情報技術	3.8	高輝度LED、太陽光、データストレージ、半導体などの市場で先端半導体の独自技術を用いてソリューションを提供する企業。
3	オーマット・テクノロジーズ 公益事業	3.3	米国を中心に世界展開を進める再生可能エネルギー事業者。主力である地熱発電のほか、太陽光発電や蓄電も手掛ける。開発から建設・運営までの一貫体制に特色。
4	オープンレーン 資本財・サービス	2.5	北米と欧州で中古車のデジタルマーケットプレイスを展開する事業者。法人向けの中古車売買プラットフォームを提供しており、中古車ディーラー向け在庫金融も手掛ける。
5	エンビリ 資本財・サービス	2.4	米国の環境サービス会社。鉄道車両メーカーとして創業し、2023年にHarscoからEnviriに社名変更。鉄鋼業向け産廃処理・資源回収のほか、鉄道保守車両・付随サービスも手掛ける。特殊・有害廃棄物処理事業は売却する予定。
6	レジデオ・テクノロジーズ 資本財・サービス	2.4	ハネウェル・インターナショナルから分社化された会社で、家庭向けを中心にホームセキュリティや空調制御、水・エネルギー管理システムなどのスマートホームデバイスやソリューションを提供。
7	ケー・ビー・アル 資本財・サービス	2.3	全世界の航空宇宙、防衛企業向けに、コンサルティング、サイバーセキュリティ、エンジニアリング・ソリューションを提供するITサービス会社。
8	エアキャップ・ホールディングス 資本財・サービス	2.2	3,400機を超える機材を保有する世界最大級の航空機リース会社。主要取引先にはアメリカン航空、中国南方航空、アズール航空などがある。
9	ラムバス 情報技術	2.0	高速チップインターフェイスの設計・開発・ライセンス供与・販売を行うテクノロジー企業。同社の技術は製品、その他電子製品の性能や、コスト効率の向上を可能にする。
10	I P Gフォトニクス 情報技術	1.9	米国レーザー加工機大手。溶接や切断などの金属加工向け高出力ファイバーレーザーが主力で、医療機器、マイクロマシニング、防衛分野にも独自製品を展開。

※上記のコメントは、基準日現在の組入銘柄の紹介であり将来変更する可能性があります。

組入銘柄数	98
-------	----

※6ページの「当資料のお取扱いにおけるご注意」をご覧ください。

ファンドマネージャーコメント

<市場概況>

【株式動向：地政学的リスクの後退と好調な企業決算を背景に上昇】

米国株式市場では、AI（人工知能）関連株の上昇や好調な企業決算、市場予想を上回った米国雇用統計による労働市場の底堅さが好感され、上昇基調で推移しました。原油価格の高止まりによるインフレ懸念と中東情勢の不透明感が重石となり株価は一時下落したものの、中東紛争の終結に向けた協議の進展や好調な企業決算を好感して株価は反転し、上昇基調を維持しました。

【為替動向：小幅に円高が進行】

米ドル円為替レートは小幅に円高米ドル安となりました。4月末から大型連休にかけて実施されたとみられる日本政府の断続的な為替介入により、急激に円高米ドル安が進行しました。その後は、中東情勢の緊迫化に伴う原油高からFRB（米連邦準備制度理事会）の年内利下げ観測が後退した一方、日銀が追加利上げに慎重な姿勢を示したことから日米金利差の拡大が意識されました。また、原油高による実需の円売り米ドル買いも重なり、月末にかけては円安の展開となったものの、月を通しては小幅に円高米ドル安となりました。

<運用状況>

当月の基準価額は、保有銘柄の価格上昇がプラスに寄与し、8.31%上昇しました。

セクター別では、情報技術などがプラス寄与しました。

個別銘柄では、衛星通信サービスを手掛けるピアサットが上昇し、プラス寄与しました。米国防総省から大型の受注を獲得を発表したことなどが背景です。一方、室内センサーシステムを手掛けるレジデオ・テクノロジーズが下落し、マイナス寄与しました。2026年1-3月期決算は業績計画を上回る良好な結果となったものの、慎重な業績見通しを発表したことなどが嫌気されました。

<今後の見通しと運用方針>

米国とイランは戦争終結に向けた和平協議を継続しており、双方ともに本格的な武力衝突に戻ることは回避したい思惑があると見られています。中東情勢の緊迫化に端を発したエネルギー価格の高止まり、またナフサやジェット燃料の供給不足などは世界経済の圧迫要因であり、事態の早期打開が望まれています。金融市場への影響という観点では、インフレ懸念の高まりを受け、世界の中央銀行が金融政策のパス（経路）を変化させるかが焦点であるといえます。一方、膠着状態が続く中東情勢を横目に、株式市場ではテクノロジー関連銘柄への資金流入が継続しています。世界有数のAI開発企業である米国のアンソロピックは、足元で売上高が加速度的に増加していることを発表しました。株式市場では、AI関連投資の過熱感を懸念する向きもありましたが、アンソロピックによるAIのマネタイズ（収益化）成功によって、こうした懸念が大きく後退したといえます。当面は変動性の高い市場環境が続く見込みですが、着実な業績成長を達成できる企業の「質」が株価の優勝劣敗を左右すると考えます。投資チームでは、当面は変動性が高い状況が継続する可能性があるものの、成長ポテンシャルが高い銘柄を割安に購入する好機であると考えています。引き続き、本源的価値に対して割安感の強い銘柄を発掘し、企業イベントなどカタリスト（材料やきっかけ）が見込める銘柄に投資を行います。

※ニューバーガー・バーマンの情報を基に掲載しています。

※6ページの「当資料のお取扱いにおけるご注意」をご覧ください。

ファンドの特色（詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。）

1. 米国の取引所に上場されている小型株式を主要投資対象とします。
 - 小型株式とは、原則として、時価総額50億米ドル未満*の銘柄とします。
*ファンドは外国投資証券への投資を通じて米国の取引所に上場されている小型株式に投資します。
上記の時価総額は外国投資証券における株式への投資開始時点のものです。
 - 外国投資証券「ニューバーガー・バーマン・U S スモールキャップ・イントリンジック・バリュー・ファンド（JPY I3 アキュムレーティング・クラス）」と親投資信託「東京海上マネープールマザーファンド」に投資を行い、ファンド・オブ・ファンズ方式により運用を行います。
2. 株価が企業の本源的価値に対して過小評価されており、今後、本源的価値と株価の乖離が縮小すること（リカバリー）が見込まれる銘柄に投資します。
3. 米国の小型株式の実質的な運用は、「ニューバーガー・バーマン・インベストメント・アドバイザーズ・エル・エル・シー」が行います。
 - 「ニューバーガー・バーマン・インベストメント・アドバイザーズ・エル・エル・シー」は、「ニューバーガー・バーマン・グループ・エル・エル・シー」に属します。
4. 外貨建資産については、原則として、為替ヘッジを行いません。

資金動向および市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

【分配金に関する留意事項】

- ・ 分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。受益者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全額が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です。
- ・ 将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

ファンドの主なリスクについて（詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。）

- ・ 投資する有価証券等の値動きにより基準価額は変動します。したがって、投資元本は保証されているものではなく、投資元本を割り込むことがあります。
- ・ 運用による損益は、全て投資者に帰属します。
- ・ 投資信託は預貯金や保険と異なります。
- ・ ファンドへの投資には主に以下のリスクが想定されます。

■ 価格変動リスク	： 株価は、政治・経済情勢、発行企業の業績・財務状況、市場の需給等を反映して変動します。株価は、短期的または長期的に大きく下落することがあります（発行企業が経営不安、倒産等に陥った場合には、投資資金が回収できなくなることもあります。）。組入銘柄の株価が下落した場合には、基準価額が下落する要因となります。 また、ファンドでは、相対的に値動きの大きい小型株式へ投資するため、大型株式へ投資する場合に比べて、基準価額がより大きく下落する場合があります。
■ 為替変動リスク	： 外貨建資産の円換算価値は、資産自体の価格変動の他、当該外貨の円に対する為替レートの変動の影響を受けます。為替レートは、各国・地域の金利動向、政治・経済情勢、為替市場の需給その他の要因により大幅に変動することがあります。組入外貨建資産について、当該外貨の為替レートが円高方向にすすんだ場合には、基準価額が下落する要因となります。
■ カントリーリスク	： 投資対象国・地域において、政治・経済情勢の変化等により市場に混乱が生じた場合、または取引に対して新たな規制が設けられた場合には、基準価額が予想以上に下落したり、投資方針に沿った運用が困難となることがあります。
■ 流動性リスク	： 受益者から解約申込があった場合、組入資産を売却することで解約資金の手当てを行うことがあります。その際、組入資産の市場における流動性が低いときには直前の市場価格よりも大幅に安い価格で売却せざるを得ないことがあります。この場合、基準価額が下落する要因となります。

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

※6ページの「当資料のお取扱いにおけるご注意」をご覧ください。

お申込みメモ（詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。）

購入単位	販売会社が定める単位。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額
換金単位	販売会社が定める単位。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額
換金代金	原則として、換金申込受付日から起算して、7営業日目からお支払いします。
申込締切時間	原則として午後3時30分までに、販売会社の手続きが完了したものを当日受付分とします。なお、販売会社により取扱いが異なる場合があります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
換金制限	ファンドの資金管理を円滑に行うため、大口の換金には制限を設ける場合があります。
購入・換金 申込不可日	以下に該当する日には、購入・換金のお申込みができません。 <ul style="list-style-type: none"> ・ ニューヨーク証券取引所の休業日 ・ ロンドン証券取引所の休業日
信託期間	2044年6月3日まで（2023年8月29日設定）
繰上償還	主要投資対象とする外国投資証券が存続しないこととなる場合は、繰上償還となります。 以下に該当する場合等には、繰上償還することがあります。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 受益権の総口数が10億口を下回るようになったとき ・ ファンドを償還することが受益者のため有利であると認めるとき ・ やむを得ない事情が発生したとき
決算日	6月5日（休業日の場合は翌営業日）
収益分配	年1回の決算時に収益分配方針に基づき、収益分配を行います。 ※販売会社との契約によっては再投資が可能です。 ※分配対象額が少額の場合等には、分配を行わないことがあります。
課税関係	収益分配時の普通分配金、換金時および償還時の差益に対して課税されます。 課税上は株式投資信託として取扱われます。 公募株式投資信託は、税法上、一定の条件を満たした場合に少額投資非課税制度「NISA」の適用対象となります。 ファンドは、「NISA」の「成長投資枠（特定非課税管理勘定）」の対象ですが、販売会社により取扱いが異なる場合があります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。 配当控除および益金不算入制度の適用はありません。 ※税法が改正された場合等には、内容等が変更される場合があります。

Monthly Report

東京海上・米国リカバリー・ポテンシャル戦略株式ファンド

ファンドの費用（詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。）

■ 投資者が直接的に負担する費用

購入時手数料	購入価額に対して <u>上限3.3%（税抜3%）</u> の範囲内で販売会社が定める率をかけた額とします。 詳しくは販売会社にお問い合わせください。
信託財産留保額	ありません。

■ 投資者が信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用 （信託報酬）	<p>ファンド : 純資産総額に年率1.122%（税抜1.02%）をかけた額とします。</p> <p>投資対象とする投資信託証券 : 純資産総額に年率0.6%程度^{（注）}</p> <p>実質的な負担※ : <u>年率1.722%程度（税込）</u>^{（注）}</p> <p>（注） 投資対象とする外国投資証券において、その他、管理費用等（0.22%以内）がかかります。 ※ ファンドが投資対象とする投資信託証券の信託報酬を加味して、投資者の皆様が実質的に負担する信託報酬率について算出したものです。</p>
その他の費用・手数料	<p>以下の費用・手数料等がファンドから支払われます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 監査法人に支払うファンドの監査にかかる費用 ファンドの純資産総額に年率0.011%（税込）をかけた額（上限年99万円） 組入有価証券の売買の際に発生する売買委託手数料 資産を外国で保管する場合にかかる費用 信託事務等にかかる諸費用 投資対象とする投資信託証券における諸費用等 <p>※ 監査にかかる費用を除く上記の費用・手数料等は、取引等により変動するため、事前に料率、上限額等を表示することができません。</p>

※上記の手数料等の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので、事前に表示することができません。

当資料のお取り扱いにおけるご注意

- 当資料は、東京海上アセットマネジメントが作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。お申込みに当たっては必ず投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。投資信託説明書（交付目論見書）は販売会社までご請求ください。
- 当資料の内容は作成日時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に記載された運用実績は、過去の実績を示したものであり、将来の運用成果を示唆・保証するものではありません。
- 投資信託は、値動きのある証券等（外貨建資産に投資する場合には、この他に為替変動リスクもあります）に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、元本が保証されているものではありません。
- 投資信託は、金融機関の預金とは異なり元本が保証されているものではありません。委託会社の運用指図によって信託財産に生じた利益および損失は、全て投資家に帰属します。
- 投資信託は、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用はありません。
- 投資信託は、預金および保険契約ではありません。また、預金保険や保険契約者保護機構の対象ではありません。
- 登録金融機関から購入した投資信託は、投資者保護基金の補償対象ではありません。

Monthly Report

東京海上・米国リカバリー・ポテンシャル戦略株式ファンド

委託会社、その他関係法人

■委託会社：東京海上アセットマネジメント株式会社

ファンドの運用の指図を行います。

商号等： 東京海上アセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第361号

加入協会：一般社団法人 資産運用業協会、一般社団法人 第二種金融商品取引業協会

■受託会社：三井住友信託銀行株式会社

ファンドの財産の保管・管理を行います。

■販売会社

商号（五十音順）	登録金融機関	金融商品取引業者	登録番号	加入協会			
				日本証券業協会	資産運用業協会	一般社団法人 取引業協会 金融先物 取引業協会	一般社団法人 取引業協会 第二種金融商品
株式会社 イオン銀行 （委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社）	○		関東財務局長（登金）第633号	○			
岩井コスモ証券株式会社		○	近畿財務局長（金商）第15号	○	○	○	
株式会社 S B I 新生銀行 （委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社）	○		関東財務局長（登金）第10号	○		○	
岡地証券株式会社		○	東海財務局長（金商）第5号	○	○		
木村証券株式会社		○	東海財務局長（金商）第6号	○			
株式会社 仙台銀行	○		東北財務局長（登金）第16号	○			
中銀証券株式会社		○	中国財務局長（金商）第6号	○			○
株式会社 中国銀行	○		中国財務局長（登金）第2号	○		○	
マネックス証券株式会社		○	関東財務局長（金商）第165号	○	○	○	○

※販売会社によっては、現在、新規申込みの取扱いを中止している場合があります。

当ファンドの照会先

前掲の販売会社または下記までお問い合わせください。

東京海上アセットマネジメント

サービスデスク 0120-712-016

受付時間：営業日の9時～17時

ホームページ <https://www.tokiomarineam.co.jp/>

東京海上アセットマネジメント
YouTube公式チャンネル

ファンド・マーケット関連動画などを公開しています。



※6ページの「当資料のお取扱いにおけるご注意」をご覧ください。